

文学部 英文学科

Study



University
of Victoria

Abroad



Program

CONTENTS

英文学科スタディ・アブロード・プログラムについて	1
SA プログラムの単位認定、スケジュールについて	2
出発までの準備について	3
Dublin City University	4
University of Victoria	6
SA プログラム参加体験記	8
SA プログラムのサポート体制について	11
英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン	12

スタディ・アブロード（SA）プログラム

英文学科のみなさん、在学中に英語圏に留学しませんか。
密度の高い英語の授業と異文化体験によって、
世界に通用するコミュニケーション力と適応力が身につきます。

（1）夏期 SA プログラム (Dublin City University)

アイルランドにあるダブリンシティ大学での約3週間の語学研修プログラムです。英語圏で生活し、他国からの留学生と机を並べて勉強することによって、英語力を集中的に身につけ、英語文化への理解を深め、帰国後の勉強意欲を高めることが目的です。

（2）秋学期 SA プログラム (University of Victoria)

カナダにある名門総合大学、ヴィクトリア大学での約4か月間の語学研修プログラムです。優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら英語を学習することで、語学力を向上させるとともに、帰国後の英語と英語文化の学習への意欲を高めることが目的です。
また、ホームステイで現地の家族と交流することを通して、コミュニケーション能力を高め、異文化理解を深めます。

■参加資格

- 英文学科に在籍し、所定の審査を通過した学生
- 心身ともに健康で、海外での生活に順応できる学生
- SA 出発までに実施される説明会やガイダンス、帰国後の報告会などに参加できる学生

■選考方法

夏期 SA プログラム (DCU) と秋学期 SA プログラム (ヴィクトリア) とでは、選考方法が異なります。

① 夏期 SA プログラム (DCU)

応募者が募集人数を超えなければ、原則として、書類だけで選考します。

② 秋学期 SA プログラム (ヴィクトリア)

応募人数にかかわらず、書類選考と面接試験を行います。書類選考では大学での成績や英語力を中心に、面接試験ではコミュニケーション能力、勉強意欲、志望動機などを中心に、長期の留学に適しているかどうかを判断します。

※選考後に参加をキャンセルした場合、キャンセル料がかかる場合があります。

SAプログラムの単位認定について

英文学科が実施する SA プログラムは 2 カ国 2 コースからなります
 いずれも、現地プログラムで所定の評価を得て、
 帰国後に実施される面接や報告会などに出席することにより、
 本学の卒業所要単位として認められます。
 ※詳細は最終頁「英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン」にて
 確認してください。



Dublin City University (DCU)

8 月に約 3 週間のコースとして開講される
 General English コースに参加します。
 平日の午前中は英語力向上の授業を行い、授業
 後は文化活動や現地見学も予定されています。
 週末には、アイルランド各地への日帰り旅行に
 参加できるほか、自分の時間を使って自由に探
 索することも可能です。帰国後、所定の手続き
 や審査を経て、英文学科「選択必修 B」に配置
 されている「海外英語演習」4 単位が認められ
 ます。参加者は必ず春学期の履修登録期間内に、
 「海外英語演習」を履修登録する必要があります。



University of Victoria

約 4 カ月間のコースを受講します。英語力向
 上を目指したカリキュラムで、自由時間の文
 化体験活動等も充実しています。
 帰国後、ヴィクトリア大学で履修してきた科
 目は、文学部教授会で審議のうえ、単位が認
 められた場合、同系統の専門科目「SA 認定科
 目(A・B・C)」または ILAC 科目「English 3-
 II」に読み替えて卒業所要単位となります。
 認定単位数の上限は 22 単位です。

スケジュール

選考年度

10 月下旬～11 月中旬	説明会
10 月下旬～11 月中旬	出願期間
11 月下旬～12 月上旬	選考
	結果発表
	渡航先決定

実施年度

3～6 月	ビザ・渡航説明会 事前指導
5～8 月	海外旅行保険説明会 危機管理ガイダンス・ 直前ミーティングほか
8 月（または 9 月）	出発

(※新入生については、定員に空きがあり、追加
 募集を行う場合に限り、4 月（予定）に応募
 が可能となります。)

参加決定後～SA出発までの準備

①パスポートの取得（説明会で指示）

参加決定後、パスポートは各自で取得します（取得費用は各自の負担です）。すでにパスポートを持っていたとしても、SA期間前や期間中に有効期限が切れる場合は、出国前に自分で更新手続きをする必要があります。

②SA先大学入学願書等必要書類の作成・提出（選考年度の1月以降）

SA先大学への入学願書を記入して国際交流課に提出します。その他SA先によって必要な書類がありますので、順次、準備を進めていきます。

③ビザ・渡航説明会（実施年度の3月～5月）

SA参加にあたって渡航認証や学生ビザの取得が必要となるため、必要な書類の説明をするガイダンスです。各種証明書や書類などを各自で準備する必要があります。

④先輩との交流会（実施年度の7月～8月）

昨年度SAに参加した学生から、SA先大学の様子や、現地での具体的な生活状況や授業の様子などを聞くことができます。

⑤海外旅行保険説明会（実施年度の5～6月頃）

SA参加者が必須で加入する、大学指定の海外旅行保険の説明会を行います。

⑥危機管理ガイダンス（実施年度の6～7月頃）

留学中に思わぬアクシデントに見舞われた場合、どのように対処すべきか等について、危機管理の観点から説明を行います。

⑦英文残高証明書（実施年度の4月頃から）

アイルランド（DCU）の場合入国管理局の指示に

より、金融機関が発行する本人名義の英文の残高証明書が必要となります。これは留学中の支払能力を証明するもので、2026年度は€833以上でした。（証明書発行後の預金移動は可能です。）

※詳しくはSA説明会やガイダンスで説明しますが、余裕をもった資金準備をお願いします。

⑧SA費用の支払い（実施年度の7月頃）

各プログラムのSA費用と奨学金については、それぞれ次ページ以降の大学ごとのページに実績額を記載してあります。参加費用は為替レートや航空券代・燃油代の変動により、大きく変動しますので、余裕を持った資金準備をお願いします。SA費用は、SA先により納入方法や時期が異なります。アイルランド（DCU）の場合は出発前の7月頃に法政大学宛てに納入いただきます。カナダ（ヴィクトリア大学）の場合は以下の通りとなります。

- ・ヴィクトリア大学の授業料及びホームステイ申込金：アプリケーション手続き時（3月前後）～プログラム開始5週間前までに参加者自身で直接ヴィクトリア大学へ支払い
 - ・月々のホームステイ費用：参加者自身で現地で毎月ホストファミリーに直接現金で支払い
 - ・上記以外の旅行代金（航空券代や保険料など）：法政大学宛に納入（出発後の12月頃）
- 奨学金は所定の申請後にお振込、もしくは費用と調整します。

⑨直前ミーティング

出発の約2週間頃前に行われるガイダンスで、当日の集合場所を含め、SA出発に向けた最終案内をします。

Dublin City University

基本情報



【所在地】アイルランド ダブリン州グラスネヴィン

【受入機関】ダブリン・シティ大学 (Dublin City University, DCU)
インターナショナルアカデミー

【対象】夏 期：英文学科の1年生以上

【参加人数】夏 期：25名

【留学予定期間】夏 期：8月上旬～8月下旬（約3週間）
（留学期間に変更になる場合があります。）

【宿泊施設】

DCU キャンパス・レジデンス（シャワー・トイレ付個室、リビング・キッチン共有、Wi-Fi 完備）

■大学概要

ダブリンシティ大学 (DCU) は、アイルランドのダブリン市中心部から北へ 5km の地点に位置する大学です。1975 年にダブリン国立高等教育機関として設立され、1980 年に最初の学生を受け入れ、1989 年 9 月に法令により大学の地位を取得しました。

アイルランドは、留学生にとって安全で親しみやすい場所と認識されています。ヨーロッパで最も親しみやすい国、世界で 9 番目にランク付けされています。世界平和度指数では、アイルランドが地球上で 8 番目に平和な場所としてランク付けされています。

DCU では、学生の福祉とサポートを最優先事項と考えています。学生カウンセラーは平日の日中に対面式で対応しています。また、必要な場合は、時間外の支援を提供する 24 時間の電話サポートサービスも行っております。

■生活環境

リフィー川の河口にあるアイルランド共和国の首都ダブリンは、豊かな自然と長い歴史を兼ね備えた美しい都市です。多くの文学者を輩出したことでも著名なダブリンの市内には、『ガリヴァー旅行記』の作者ジョナサン・スウィフトゆかりの聖パトリック大聖堂があります。また電車で 30 分も移動すれば、ジェイムズ・ジョイスの小説『ユリシーズ』の舞台となったマーテロ・タワーも見学できます。さらに足をのばせば、初期キリスト教文化を伝えるグレンダロッホの教会群や、5000 年以上前の巨大古墳ニューグレンジにも行けます。

【夏期 SA プログラム】

■授業の内容と特色

授業は 3 週間にわたって実施されます。参加者は渡航前にオンラインの語学力判定テストを受け、その結果に基づいてレベル別のクラスに分けられます。授業はダブリン・シティ大学インターナショナル・アカデミーの教員によって行われ、月曜日から金曜日まで午前 9 時から午後 1 時までの 4 時間、英語による集中授業が組まれています。

授業内容はスピーキング、リスニング、リーディング、ライティングに加え、語彙、発音、文法を含む総合的な英語運用能力の向上に重点が置かれています。午後には現地見学や文化活動が企画されており、教室での学習とあわせて実践的な英語力の習得と異文化理解を深めることができます。

※今後変更になる場合もあります。

■宿泊施設

DCU キャンパスレジデンス

キャンパス内にあるシングルルーム（専用バスルーム付き）・自炊スタイル
宿泊に関する詳細は以下をご参照ください。

DCU キャンパスレジデンス

<https://english.dcu.ie/accommodation/dcu-glasnevin/>

■費用について

現地費用は為替変動などにより大きく変わりますのであらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。

【必要な費用】

①出発前までに必要な費用

- ・ 航空運賃（燃油サーチャージ等含む）
- ・ 海外旅行保険料
- ・ 運営サポート料（旅行代理店）
- ・ 帰国時現地空港チェックインアシスト費用
- ・ 授業料
- ・ 寮費
- ・ 空港送迎費

（参考：2026 年度費用実績）

- ・ 現地プログラム費用 約 40 万円程度
 - ・ 旅費・保険料
（過年度実績約 45 万円程度）
- 合計 85 万円程度

※プログラム費用は変動する可能性があり、航空券や燃油サーチャージなど未確定の要素も多く、さらに為替の影響も大きいため、最終的な費用が大きく変動する場合があります。
あらかじめご了承ください。

②出発後に必要な費用

- ・ 食費
- ・ 交通費
- ・ テキスト代等

【奨学金】

文学部奨学金 支給（返還不要）

（参考：2026 年度）

1 名あたり約 14 万円。

※奨学金支給額は参加者人数により大きく変動します。

University of Victoria

基本情報



【所在地】カナダ ブリティッシュコロンビア州ヴィクトリア

【受入機関】English Language Centre, Division of Continuing Studies, University of Victoria

【HP】 <https://continuingstudies.uvic.ca/>

【対象】2年生以上（応募は1年生以上）

【参加人数】15名

【留学予定期間】9月上旬～12月中旬（約4ヵ月間）

【宿泊施設】ホームステイ

■大学概要

世界的に知られている名門総合大学です。1903年に Victoria College として設立され、1963年に University of Victoria となりました。学生数は約2万人です。国際交流、留学生教育に関して豊富な経験を持つ優れた教育施設で、カナダの豊かな文化と自然に触れながら、英語と英語文化を学習します。ヴィクトリアはカナダのバンクーバーから飛行機で約30分の場所に位置しています。生活の便は良く、治安も良い場所です。



■生活環境

カナダ本土から少し離れたバンクーバー島にあるヴィクトリアは、英国風の建物も多く、趣きのある街並みが特徴です。年間を通して温暖な気候のため、ガーデニングも盛んで、ガーデンシティと呼ばれるほど美しく、観光の町でもあります。ダウンタウンにはショッピングセンターもあります。さらに周囲を海に囲まれているためホエールウォッチングも有名です。

■授業の内容と特色

クラスは習熟度別に6段階に分かれ、授業は月曜から金曜まで一週間に20時間行われます。少人数教育で、ヴィクトリア大学の語学センター（English Language Centre）に所属するインストラクターが、英語を母国語としない EFL（外国語としての英語）のプログラムを担当します。プログラムの後半にはプレゼンテーションをメインとした授業があり、自分の力で英語での発表を準備するノウハウを学ぶことができます。

■宿泊施設

参加学生はヴィクトリアのキャンパス近くにホームステイします。

■費用について

現地費用は為替変動などにより大きく変わりますので、あらかじめ余裕をもった資金準備をお願いします。また、SA 期間中の法政大学の学費はこの SA 費用とは別に必要となりますので、注意してください。

【費用】（4 か月間の場合）

①出発前までに必要な費用

- ・航空運賃(燃油サーチャージ等含む)
- ・海外旅行保険料
- ・運営サポート料（旅行代理店）
- ・帰国時現地空港チェックインアシスト費用
- ・授業料
- ・ホームステイ費
- ・空港送迎費

（参考）

2026 年度：費用合計

約 160 万円

※プログラム費用は変動する可能性があり、航空券や燃油サーチャージなど未確定の要素も多く、さらに為替の影響も大きいため、最終的な費用が大きく変動する場合があります。

あらかじめご了承ください。

②出発後に必要な費用

- ・食費
- ・交通費
- ・テキスト代等

【奨学金】

文学部奨学金と JASSO 奨学金(日本学生支援機構 ※採択された場合に限る)があります。いずれも返還不要です。なお、JASSO に本プログラムが採択され、かつ対象者が採用された場合、毎月 11 万円支給されます。申請、支給方法については、別途ガイダンスでお知らせします。
※奨学金支給額は参加人数により大きく変動します。

（参考）2026 年度：

	JASSO	文学部	合計
JASSO 採用の場合	44 万円	約 13 万円	約 57 万円
JASSO 不採用の場合	0 円	48 万円	48 万円



2025年度 ヴィクトリア
K.Fさん

中学二年生の夏休みに、アメリカへ二週間の滞在を経験があるのですが、二週間では、「海外で生活をする」という実感が少なかったので、今回の三か月の留学に挑戦したいと考えるようになりました。また教職を履修している私にとって、単位取得ができるという点においても応募しようと思った大きなきっかけとなりました。

私のホストファミリーは、イベントを全力で楽しむマザー、趣味のロッククライミングの陽気なファザー、毎日のように一緒に遊んでくれた11歳のシスターと7歳のブラザーの四人家族でした。とてもフレンドリーでアクティブな家族で、休日に季節のイベントにたくさん連れて行ってもらったり、近所に住んでいるホストファミリーの友達とも一緒に外で遊んだりしました。今でもSNSを通じて連絡を取り合うほどの関係を築くことができました。

授業は午前クラスと午後クラスがあり、私は午前のクラスで、朝からお昼前までが授業でした。Speaking、Listeningの一コマと、Writing、Readingの一コマの計二コマの授業で、それぞれ違う先生が担当でした。どちらの授業もアクティビティが多く、クラスメイトとすぐに打ち解けて楽しく授業を受けていました。クラスメイトの前で発言したり、プレゼンテーションの時間もあつたりと、人前で英語を話すという機会が多く与えられ、最初は緊張して、言葉に詰まることもありましたが、だんだんと間違えに恐れず自分の英語に自信がついてくるようになりました。

ヴィクトリアは留学生にとってとても過ごしやすい街だったのかなと思っています。学校や家の周りは山や海などの自然に囲まれていて、リスや鹿などの動物なども歩いていたら普通に遭遇することができます。ダウンタウンにいれば都会的な街並みが広がっていてショッピングやおしゃれなカフェ巡りなどを楽しむことができます。また、バンクーバーのほうまでフェリーですぐに訪れることもできるので、休日を使って旅行をしに行くこともありました。

一日のスケジュールとしては、朝7時ごろに起床、マザーが用意してくれた朝ごはんを食べ、バスで学校に向かいます。授業を二コマ受けた後は、クラスメイトと一緒にランチの時間です。ランチの時間でクラスメイトとの仲が深まったと感じています。帰宅後は、夕飯までの時間子どもたちと

んだり、宿題をして、夕食を食べ、マザーとおしゃべりをしたり子どもたちと遊ぶという感じでした。私自身ホストファミリーと仲良くなりたいという思いが強く、できるだけ長くリビングにいるように心がけていました。

SA留学に参加したことで、自分が想像していた以上の経験をすることができました。語学力だけではなく、人とのつながりを広げられたことが私にとってなによりの収穫となりました。ここでは書き切ることができないほどの思い出を作っただけで帰国し、また滞在中、うまく英語が伝わらなかったことが英語を勉強する大きなモチベーションとして持ち帰ることもできました。

留学は確かに、不安なこともたくさんあるかと思いますが、ためらってしまう気持ちもわかります。しかし、迷うくらいなら行った方がいいです。最初は不安に感じて、振り返ったときに、あの時挑戦してよかったと思えると思いますし、私が実際そう強く思っています。



2025年度 ヴィクトリア
S.Gさん

私が SA プログラムに参加した理由は、英語を「勉強するもの」から「使うもの」へと変えたいと感じたからです。これまで英語を学んできたものの、実際に英語だけの環境で生活する経験はなく、自分の英語力に不安もありました。しかし、その不安を乗り越えたい、そして異なる文化の中で生活しながら成長したいと考え、プログラムへの参加を決意しました。

現地ではホームステイをし、ホストファザー・マザー・10歳のブラザー・7歳のシスターの4人家族と生活しました。最初は英語での会話に緊張し、自分の気持ちをうまく伝えられないもどかしさを感じることもありました。しかし、毎日の生活を共にする中で少しずつ距離が縮まり、一緒にクッキーを焼いたり、ゲームをしたり、公園へ行ったり、折り紙で遊んだり、日々楽しい時間を共有するようになりました。最終的には、「ヴィクトリアで一番の家族」と思えるほど、大好きで大切な存在になりました。

授業は週5日、午前または午後のクラスに分かれ、1日4時間行われます。グループディスカッションやプレゼンテーションなど、自分の意見を英語で発信する機会が多く設けられていました。課題もワークシートだけでなく、英語での会話など実践的な内容が多く、4技能をバランスよく伸ばすことができました。毎週行われる単語テストなども効果的で、日々成長を実感しながら、着実に語学力を向上させることができたと感じています。また、多国籍のクラスメイトとの意見交換を通して、多様な価値観に触れることができました。

ヴィクトリアは自然が非常に豊かで美しい街です。実際に、道路を鹿が歩いている光景を目にすることもありました。街全体が緑に囲まれ、のどかで落ち着いた雰囲気があります。また、治安も良く、街の人々はとても親切で、困っているとすぐに声をかけてくれました。

平日は毎日ほぼ同じリズムで生活していました。朝6時に起きてバスで大学へ向かい、自習をしてから授業を受けます。授業後はお昼休憩を挟んで課題に取り組み、夕食後はホストファミリーと過ごし、22時頃には就寝していました。休日は友人と市内を散策したり、連休にはトロントやイエローナイフへ旅行に出かけ、ナイアガラの滝やオーロラを鑑賞したりしました。規則正しい生活の中で、学習と生活の両方を充実させることができました。

SA プログラムを通して、英語力だけでなく、自分自身の考え方や行動にも大きな変化がありました。英語を話すことへの抵抗がなくなり、完璧でなくても自分の言葉で相手に伝えようとする姿勢が身についたことは、自分にとって大きな成長だと感じています。また、英語を「学ぶ」だけでなく、「英語で生活し、英語で人とつながる」経験は、教室では得られない学びの連続でした。異文化の中で生活することで、自分を客観的に見つめ直す機会が増え、価値観を広げると同時に、自分自身と向き合う時間を持つことができました。さらに、多くの人との出会いを通して、人とのつながりの尊さや、これまで自分が置かれていた環境のありがたさにも気づくことができました。この経験は、自分にとって大きな自信へとつながっています。

留学前は不安を感じることもあったと思いますが、不安があるからこそ得られる成長があります。始めてしまえば、毎日が本当に充実していて、キラキラしていて、時間はあっという間に過ぎていきます。ヴィクトリアでの経験は、きっと一生の財産になると思います。ぜひ、思いきり楽しんできてください！



ダブリン・シティ大学・夏期 SA プログラム体験記

2026年度 DCU
Y.Tさん

私がSAプログラムに参加した理由は、英語でのコミュニケーション能力を向上させたいと考えていたことと、日本とは異なる文化や生活を実際に体験したいと思ったからです。実際に英語を使って生活することで、今までとは違った学びが得られるのではないかと考え、アイルランドでの3週間の留学に参加しました。また、夏休みの3週間というスケジュールを合わせやすい時期だったことも、夏期SAプログラムを選んだ決め手でした。

現地では、ダブリン・シティ大学(DCU)の敷地内にある寮で3週間生活しました。部屋は一人部屋で、SA参加者は全員同じ寮での生活でした。寮には共有スペースがあり、夜になると友達と集まって一緒に夕食を作ったり、食事をしながら話したりすることができました。一方で、生活の中ではトラブルも多く、初日はお湯が出なかったり、電気やガスコンロが使えなくなったりすることもありました。しかし、同じ寮の友達と相談しながら一つずつ問題を解決していったことは、今振り返ると良い思い出です。普段とは違う環境で生活する中で、仲間と協力することの大切さも学びました。

授業は月曜日から金曜日まで、毎日9時から13時まで行われます。授業では、日常会話で使われる少し応用的な表現などを学びました。私が特に意識していたのは、授業で習った表現を実際の会話ですぐに試してみることです。覚えた表現を教室の中だけで終わらせず、友達との会話で積極的に使うことを繰り返すことで、少しずつ自分の英語として身につけていきました。

授業が終わった後や休日には、友達と一緒にダブリンのさまざまな場所を訪れました。休日には少し遠くまで行ってみようと観光ツアーにも参加し、平日ではなかなか行けない場所まで足を伸ばしました。観光を通して現地の街並みや自然に触れるだけでなく、友達と一緒に過ごす中で、授業とは違った形で英語を使う機会も得ることができました。しかし、最初からすべてが思うようにいったわけではありません。私は「言いたいことが英語ですぐに出てこない」という壁にぶつかりました。頭の中で日本語を英語に訳し、さらに文法を考えているうちに、会話がどんどん進んでしまうのです。

その背景には、間違えることへの不安や焦り、そして最初は外国人と話す機会があまり作れていなかったことがありました。

1週間ほど経った頃、「このままではまずい」と思い、ある日のランチタイムに自分から外国人のグループに入ってみました。最初はお互いの名前を覚えるところから始まり、次第にそれぞれの国の文化や面白い言葉を教え合うようになりました。気がつけば、自然に英語で会話している自分がいました。そこには、英語に対する自分の考え方の変化がありました。最初は正しく話すことや間違えることへの不安がありましたが、少しずつ「まずは伝えてみよう」「間違えても大丈夫だ」と思えるようになったのです。私の中で、英語が「勉強するもの」から「人とつながるためのツール」へと変わった瞬間でした。

その後はさらに仲も深まり、みんなで映画を観に行ったり、イタリア人の友達に誘ってもらってイタリアの伝統的な行事と一緒に祝ったり、ダブリンの公園や植物園に出かけたりしました。最後には、「みんなと会えなくなってしまうのが寂しい」「まだ日本に帰りたくない」という、留学最初の自分が聞いたら驚くような感情まで芽生えていました。

これからSAに参加する皆さんの中には、英語力や海外での生活に不安を感じている人もいます。最初から完璧に話せなくても、まずは一言話してみたり、自分から行動したりすることで、少しずつできることが増えていきます。留学中にしかできない経験や、そこでしか出会えない人もたくさんいます。不安があっても、少しでも参加してみたいという気持ちがあるなら、ぜひ一歩踏み出して、自分だけのSA体験を見つけてほしいと思います。



スタディ・アブロード・プログラムのサポート体制

■海外旅行総合保険

SA プログラムの参加学生は、法政大学が指定する海外旅行総合保険に加入していただきます。現地でのケガや病気の時、あらかじめ指定された病院（キャッシュレス指定病院）で診察を受ければ、その場で自己負担することなく治療が受けられます。指定病院以外でも、領収書と診断書があれば、帰国後に一定の範囲内で保険金を受け取ることができます。歯科治療に関しては保険対象外で、その他にも保険対象範囲は定められています。詳しくは出発前の各種ガイダンスでお知らせします。

■24 時間対応の電話アシスタンスサービス

現地での病気やケガ、事件事故等のトラブルの際には、24 時間対応の電話アシスタンスサービス（日本語で対応可能な危機管理サポートデスク）を利用することができます。

■（SA 期間中）授業や滞在先に関すること

SA 留学期間中に授業や滞在先に関する悩み事やトラブルがある際は現地大学スタッフや、寮、ホームステイの担当者が相談に乗ります。

■SA ポータルサイト

SA 留学期間中に、日本にいる法政大学の教職員に質問や相談がある場合、法政大学に直接電話をかけることもできますが、国際電話代や、時差、窓口時間の関係上、難しいケースがあります。そのようなときは、SA ポータルサイトにアクセスして、問い合わせをしてください。出発前に SA 参加者全員に ID とパスワードを配布します。

なお、留学期中、このポータルサイトを使用して、月例報告（秋学期 SA 参加者のみ）、旅行届を提出することが、SA 参加者の義務になっています。

■グローバル教育センター国際交流課

グローバル教育センターでは、派遣先の教育機関と連携し、SA の選考に合格し、派遣が決まった学生の留学までの手続きをサポートしています。また、留学中のアドバイスやトラブル対応等も文学部と共に行っています。

<問い合わせ>

〒102-8160

東京都千代田区富士見 2-17-1

（大内山校舎 2 階グローバル教育センター内）

Tel: 03-3264-9408

E-mail: sapro@hosei.ac.jp

窓口時間

月～金 9:00～17:00（11:30～12:30 を除く）

■文学部担当

文学部担当では、事前指導、奨学金申請、単位認定手続き、出発後の英文学科生への連絡内容伝達（ゼミや卒論関係）、課題連絡・提出や帰国後報告会の案内・実施等を行います。何か困ったことや気になることがありましたら、気軽に文学部窓口あるいは大学付与のメールにてご相談ください。

<問い合わせ>

Tel: 03-3264-9324

窓口時間

月～金 10:00～16:00（11:30～12:30 を除く）

土曜日 9:00～12:00

英文 SA 単位読み替えに関するガイドライン

文学部 英文学科

【ヴィクトリア参加者対象】

英文 S A 単位読み替えに関するガイドライン

S A で取得した単位は以下のガイドラインに則って教授会において決定される。

① 認定単位数

- 1) S A で取得した単位は、年度ごとに 22 単位まで法政大学文学部英文学科専門科目の単位、または ILAC 科目「English 3-II」として認定されることがある。
- 2) 認定される単位数は、授業時間数に応じて、所定の計算式に基づいて認定される。
- 3) ただし、音楽や美術の実習などの実技科目の単位については、2) で規定された単位数と S A 先大学の単位数の両方を考慮して単位数が認定される【原則として 2) で規定される単位数の 6 割程度】。

② 科目系列

- 1) 原則として選択必修 B 群の「S A 認定科目 (B)」として認定される。
- 2) 取得した科目の内容によっては、8 単位を上限として選択必修 A 群の「S A 認定科目 (A)」として認定されることがある。申請する場合は、選択必修 A 群に該当すると考える根拠がわかるよう、授業内容についての説明も含めること。
注) 特段の理由がない場合は 4 単位を上限とする。
- 3) 卒業論文に直接関連する科目として位置づけられている選択必修 C 群の「S A 認定単位 (C)」として認定されることはない。ただし、取得した科目が卒業論文に直接関連する科目であると指導教員が認定する場合にかぎって、選択必修 C 群として認定されることがある。
- 4) ILAC 科目「English 3-II」も認定の対象となる。認定を希望する場合は、S A 先で 4 技能 (reading, writing, speaking, listening) が連動した英語科目の単位を取得すること。

① 申請方法

- 1) 1st term 履修決定のころ (10 月頃)、文学部担当よりメールで送られる「単位認定申請書」にて申請する。シラバス、時間割もあわせて提出する。
- 2) 長期参加者は、2nd term 履修決定のころ (2 月頃) に 2nd term 分の「単位認定申請書」あるいは「授業報告書」(認定可能単位数をすでに 1st term で達した方のみ) にて申請、提出する。